

令和5年度 研究助成報告の作成要領

研究助成報告にあたっては、「①研究助成報告書（報告様式）」（会計報告添付）と、「②研究論文要約」の2点を作成し、①、②とも各1部を郵送により提出してください。

なお、②についてはデータ（word 文書）もメールにて hiroba@seisakuiryou.or.jp まで送信してください。

また、研究課題名を変更することは不可、必ず申請時の研究課題名で報告してください。

報告は、全支出の領収書（支出の期限は令和6年3月末日）が揃い次第速やかに提出してください。報告がない場合は、助成金を返金していただくこととなりますので、報告の提出締め切りを必ず守ってください。

提出締切：令和6年5月末日

「②研究論文要約」は、そのまま、本研究事業により助成を受けた全研究をまとめて冊子にし、全国立機構病院その他当財団関係機関に配布いたします。また当財団発行の月刊誌「医療の広場」に掲載いたします。

「②研究論文要約」作成について

1. **A4用紙 3～4枚**（例参照）

研究課題名、研究者氏名、分担研究者の所属施設を記入

2. ファイル形式はワード文書

3. 縦2段組として文字10ポイント程度

4. 研究成果、緒言、方法、結果、考察、結論、参考文献、研究成果発表の順で作成

5. 図・表・写真は適宜使用。アンケート用紙などは添付して下さい。

6. 参考文献は文末に一括記載

- 6-1 引用文献は本文に引用されているもののみをあげ、引用番号は本文の引用順による。
本文中の引用箇所の右上に番号をつける

- 6-2 引用文献の書き方はバンクーバースタイルに順ずる。ただし引用文献の著者氏名、編者氏名は、4名以上の場合は最初の3名を書き、他は一ら、または et al. とする。
抄録の引用は表題の最後に（会）、欧文の場合は（abstr）とする。

<雑誌> 著者名、論文題目、雑誌名 年；巻：頁一頁。

<書籍> 著者名、書名、版数、発行都市名：出版社名；年. 頁。

例1) 里吉栄二郎. 内分泌障害によるミオパチー. 臨床神経 1961; 1: 439-49.

例2) 清水潤、西山和利、武田浩一ら. 筋生検で type II atrophy を認めた進行性半側萎縮の一例 (会). 臨床神経 1991; 31: 93.

例3) 小川鼎三. 脳の解剖学. 第4版. 東京：南山堂；1958.

例4) McKeith IG, Dickson DW, Lowe J, et al. Diagnosis and management of dementia with Lewy bodies. Neurology 2005; 65: 1863-72.

例5) 平井俊策. 膠原病に伴うニューロパチー. 上田英雄、武内重五郎、豊倉康夫、編. しびれ. 東京：南江堂；1981. p.285-95.

- 例6) Merrit HH, Fremond-Smith F. The cerebrospinal fluid. Philadelphia: WB Saunders; 1938. p.94.
- 例7) Heilman KM, Valenstein E, Watson RT. The neglect syndrome. In: Vinken PJ, Bruyn GW, Klawans HL, editors, Handbook of Clinical Neurology, vol 45, Clinical, Neuropsychology, Amsterdam, Elsevier; 1985, p.153-83.
- 例8) Meldrum BS, Corsellis JAN. Epilepsy. In: Adams JH, Corsellis JAN, editors, Greenfield's Neuropathology, 4th ed. London, Arnold; 1984. p. 921-50.

【研究論文要約の作成例】

研究課題名

遺伝子性筋疾患の分子病態解明と診断・治療法開発

研究者 ○○・・・¹⁾

分担研究者

○○・・・¹⁾, ○○・・・²⁾, ○○・・・³⁾

所属

1)・・・研究センター・・・研究所

2)・・・病院 神経内科

3)・・・大学 薬学部薬学治療学

研究成果

① 抗けいれん剤使用の母親からの児には

② 本研究の結果から、推薦すべき

緒言

我々は、筋ジストロフィーおよび類縁疾患の

本年は、

を行った。

方法

結果

考察

結論

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

参考文献

1. Mitsuhashi S, Ohkuma A, Talim B, et al. A congenital muscular dystrophy with mitochondrial structural abnormalities caused by defective de novo phosphatidylcholine biosynthesis. Am J Hum Genet 2011; 88: 845-51.
- 2.
- 3.

研究成果発表

(参考文献と同じ書式で記入してください)

発表論文

- 1.
- 2.

学会発表

1. ○○○○、○○○○、○○○○、ら、筋ジストロフィーの再生を促進する成長因子の発見。第○○回日本神経学会総会、6月22-23日、2013年。
- 2.